

Management

基本と原則

2017/09/12 OKADA ◦

【マネジメント】

● マネジメントの機能

(1) 管理的機能

資産管理・人事管理等 生産性向上のための科学的な管理手法
 PDCAサイクル 数値目標をおき、数値で管理する。
 製品からスタートする管理手法
 組織内部管理 インプットとアウトプットの管理

(2) 創造的機能

顧客（人）からスタートする管理手法

1) 実施方法

- A ロジックモデルでのアウトカムから管理指標を作成する。
- B 事業実施前に、事業の対象である受益者である顧客や支援者などのニーズや状態を調査しておく。
- C 事業実施の中間管理時期である短期・中期・長期の時点で、再調査を実施。
- D 調査結果から事業実施前と実施後とを比較して、事業成果の評価をする。
- E 成果がなければ、改善と改革をする。

2) 行動

事業を実施したことによる組織の外の状態や変化を管理指標から評価するその結果から、行動の指針を決め行動に移す。
 既存のものの管理をし、新しいものを創造する。

3) 管理指標

アウトカム管理指標は、数値で表すことが困難な場合が多い。
 事前調査から得た状態を極力数値化して、比較しやすい成果目標としておく。

● マネジメントの基本と原則

マネジメントとは、考え方であり、その基本と原則がある。

(1) 基本と原則

A 組織と社会

組織は、社会の問題を解決する社会貢献を果たす。
 社会は、組織に「自由と尊厳」を与える。
 継続的存続の認知と支援をする。

B 個人と組織

個人は組織を通じて自己実現をする。
 組織は、個人に生活の糧、社会的地位、社会における役割、自己実現の機会、チャレンジの機会、社会貢献への機会を与える。

C マネジメントの役割

働く人の強みを活かし、生き活きとする。
 組織が使命や目的を果たせるようにする。
 社会の問題解決に貢献する。
 向かう方向性と目的を共有して前進させる。
 ビジョンと現実とのギャップを埋める努力を促し、イノベーションを果たす。
 内部環境・外部環境を観察させ、変化への対応を促す。

D 仕組み

マネジメントの基本と原則に沿った組織内や社会に仕組みが必要。

活動評価方法と評価。

個人のスキルアップの為に研修や講座参加の機会
 資源獲得と流通の社会的な仕組み
 専門家育成と専門家による伴奏活動支援ネットワーク
 人材バンク

個人の強みを活かし支援する仕組みが、安心と安全を生む。

● 非営利活動法人の共通使命 基本と原則

1. 所有者は、役員でも社員でもなく会員であり、組織は、社会のインフラを構成する公器である。
2. 誰でもが自由に参加でき、何時でも退会できる組織である。
3. 共助社会の地域コミュニティを構築する。
4. 第一の顧客は、受益者
第二の顧客は、寄付者、支援者、企業、ボランティア
第三の顧客は、非営利活動組織の関係者、スタッフ
5. すべての活動は、ミッション（使命）からスタートする。
6. 活動成果評価は、アウトカムの評価であり、組織ビジョンを評価する。
7. 活動成果は組織の外にあり、組織には、コストがある。
8. 社会へのインパクトを評価し、負のインパクトを排除することで、市民から支援される持続可能な組織とする。
9. 社会貢献する個人は大切にされ、チャレンジの機会が与えられる。
10. 活動目的（ビジョン）は、「みんなのしあわせ」であり「自由」である。
11. 縦組織ではなく、「信頼と責任と役割」の組織である。
12. 組織は、貢献する個を支援し、専門知識獲得に機会を与え居場所を与え
13. 同意なく排除・担当変えをしない。人を生産性で評価しない。
14. 組織は、明確な使命と目的をもち、すべての関係者と共有する。
15. ボスははいない。平等なボトムアップな組織とする。

● 中間支援センターの役割 基本と原則

1. 非営利活動組織の地域の要であり、資源流通の市場である。
2. センターに繋がる非営利組織がネットワークで繋がり共助の社会をクラスター型に構成する、市民セクターを成す。
3. 専門知識を蓄積し、専門家を育成して、非営利組織を支援する。
4. 情報収集・取材して、誰でもが活動を評価できる情報を広報する。
5. 非営利活動を伴奏支援をする。
6. 非営利活動法人を評価し、基金により活動支援と補償をする。

● ネクスト・ソサエティ

NPO法人と中間支援センターからなるクラスター型社会
誰かが命令しなくても、自然と助け合う仕組みができる。
個に希望と勇気を与える。
誰でもが、見たことがない、共助の社会が来る。